

道徳授業案

日時 平成26年10月28日(火)
生徒 1年B組 男子17名 女子17名 計34名
授業場 北海道教育大学附属釧路小学校5年1組 教室
授業者 齊藤貴文

- 1 主題名 「人間のよさ」 道徳の内容3-(3)「生きる喜び」
- 2 資料名 「ピアノのない歌」(出典: 明治図書「自尊感情をはぐくむ道徳授業と資料集 中学校編」より一部編集)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

ポスト近代とも呼ばれる現代社会は、グローバル化の進展、高度な情報通信技術の発展に伴い、人々の価値観やライフスタイルが多様化している。特にインターネット環境が加速度的に広がったことにより、SNSやLINEなどに見られるようにコミュニケーションの形は大きく変化し、多くの恩恵とともに課題も見えてきている。デジタル化されたコミュニケーションに往来する安易で簡易な「いいね」という言葉に代表されるように、不特定多数からの承認の言葉は、ネット世界の「いごごちのよさ」となり、その世界から離れられない若者が増えていることは、課題のひとつである。

一方、東日本大震災以来、私たちは「絆」のあり方について深く考えるようになった。私たちが求める「絆」は、コミュニティの中において、様々な葛藤のある経験を通すことで築くことができるのではないだろうか。そしてそれは、ネットワークの世界における、安易に認め合う関係の中ではけっして築くことができないものとする。

中学生という時期は、自己のアイデンティティを確立する時期である。そのため自分にとっての未熟さ及び自己の弱さや自信のなさから、自己の内面と真に向き合うことを避け、都合のいいような解釈や、自己中心的な言動をしてしまうことがある。しかし、子どもたちがこれから生きる世界において本当の意味での生きる喜びや幸せを実感するためには、自己の内面としっかりと向き合い内なる自分に恥じない生き方をすることが大切だと考える。

本時では、主人公の心情に思いを馳せることを通して、すべての人間がもつ心の弱さを認識させていく。誰もがもっている人間としての「弱さ」に気づかせることで、それと真摯に向き合おうとする主人公と自己を対比する中で、人間としての「よさ」や喜びのある生き方を目指し、自尊感情を高めることにつなげていきたい。そのことを通じて、子どもたちが関わる現実の社会において、自己を偽ることなく自分のよさを発揮し、他者と共によりよい生き方を目指そうとする心情を育てることは、1学年という初期の段階において大変意義深いことと考える。

(2) 生徒の実態について

(3) 資料について

今回の授業で扱う「ピアノのない歌」は、ピアニストを目指すカナが学級のために自分のことを犠牲にして伴奏に取り組むミサコの姿から自分の心の弱さを実感するとともに、新たな考え方や人間としてあるべき姿について気付いていく物語である。カナの心の動きを通して、人間にある心の弱い部分と向き合い、乗り越えようとするのが生きる喜びにつながることに気づき、内なる自分に恥じない誇りある生き方や、夢や希望のある生き方をしようとする心情を育てたい。

4 本時案

(1) 本時のねらい

自分の弱さと向き合い、乗り越えようとするのが、人間のよさであることに気づき、夢や希望のある生き方をしようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開 (◎：中心発問 ○：発問 △：補助発問 ・：授業展開上の留意点 []：生徒の期待する言動)

主な学習活動（生徒の期待する言動）	教師のかかわり	授業展開上の留意点
<p>1. アンケートをもとに、人間のよさにかかわる意識を交流する。</p> <p><自分が弱くなって思うときはどんな時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めたことをやり遂げられない ・めんどくさいことから逃げるとき ・すぐにあきらめちゃうとき 	<p>1. アンケートをもとに、人間のよさについての意識を交流させる。</p> <p>○自分の弱くなって思うときは、どんな時</p>	<p>・主題に対する興味・関心の喚起</p>
<p>2. 資料「ピアノのない歌」を読んで、資料の内容を押さえ、登場人物の心情を考える。</p> <p><選んだ選択について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方ない ・当然 ・ずるい <p><自分だったら></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き受ける ・引き受けない <p>3. カナの心情の変化を通して、人間の心の弱さを考える。</p> <p><…なぜだろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろめたい気持ち ・逃げてしまった ・自分は自分のことを最優先にしていまい… ・ミサコは自分のことより周りを優先し… ・申し訳ない ・弱いなあ <p><どんなことを忘れなかったのだろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・賞や結果よりも大切なこと ・みんなのために頑張ることの素晴らしさ ・周りとともに困難を克服すること ・弱い心に気づいた自分を見つけた ・大変なことにもどう向き合っていくか <p>4. 抜粋した一文を提示することを通して人間の弱さについての自覚を深め、よりよく生きるための心情について考えさせる。</p> <p><カナの心は弱いだろうか></p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱くない：乗り越えようとしている金賞を取った <p><弱さって…></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちに負けてしまうこと ・自分の気持ちに正直になれないこと 	<p>2. 資料「ピアノのない歌」を読んで、資料の内容を押さえ、登場人物の心情を考えさせる。</p> <p>○カナが伴奏をやらず、パートリーダーを選んだ選択についてどう思いますか。</p> <p>△自分だったらどんな選択をしますか。</p> <p>3. カナの心情の変化を通して、人間の心の弱さを考えさせる。</p> <p>○カナが「…いつも震えた」「心に深く、深く刺さるように響いた」「私はミサコに何も言えなかった」と思ったのはなぜだろう。</p> <p>△このときのカナは自分自身のことをどう思っていたのだろう。</p> <p>◎「決して忘れずに…」カナはどんなことを忘れなかったのだろう。</p> <p>△伴奏を弾いたミサコとのやりとりからカナはどんなことに気づいたのでしょう。</p> <p>△それは本当に金賞よりも大切ですか</p> <p>4. 抜粋した一文を提示することを通して人間の弱さについての自覚を深め、よりよく生きるための心情について考えさせる。</p> <p>そして私の弱い心を射抜いているのだ。</p> <p>○カナの心は弱いだろうか。</p> <p>○弱さって何だろう。</p>	<p>・主人公の心情を思い浮かべさせる。</p> <p>・主人公の姿を自分に置き換える前段階。</p> <p>・道徳的価値の自覚を深める発問。</p> <p>・抜き取った一文の提示「そして私の弱い心を射抜いているのだ。」</p> <p>・誰にでもある「人間の弱さ」を自覚させたい。</p>
<p>5. 人間のよさを感じると共に、夢や希望のある生き方をするためにはどんなことを心がけることが大切かを考えWSに記入する。</p> <p><よりよい生き方をするためには…></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の弱さと向き合うこと ・仲間と補いながら過ごしていくこと <p>6. 説話を聞く。</p>	<p>5. 人間のよさを感じると共に、夢や希望のある生き方をするためにはどんなことを心がけることが大切かを考えさせる。</p> <p>○よりよい生き方をするためにはどんなことを心がけることが大切ですか、今日の1時間を振り返って WS に記入しよう。</p> <p>6. 説話をする。</p>	<p>・今後の自分の生き方を見つめさせる。</p> <p>・よりよい生き方について考えていこうとする姿を期待したい。</p>

「ピアノのない歌」

中学校生活最後の合唱コンクールが迫ってきた。さすがに3年生ともなると、合唱曲も難しい。指揮者や伴奏者を決めるとき、伴奏者だけが決まらなかった。過去2年間伴奏者をつとめ、ピアノを習っている私でさえためらってしまった。私は市内でも名門のピアノ教室に通っている。将来の夢はピアニストになることだ。その登竜門でもある「ショパン音楽祭」が、合唱コンクールの1か月後にあるのだ。ここで金賞を取れば、音大附属の高校への推薦だってねらえるかもしれない、そう思って私はずっと努力してきた。音楽祭の曲は弾きこなすのが難しいショパン。合唱曲など練習しているヒマはない。今年は、伴奏などできない。

私が立候補をしないので、クラスみんなが困った。重苦しい雰囲気が流れ、みんなの視線を感じた。「カナしかないよね…」とささやく声も聞こえた。「立候補がないなら推薦で…」という雰囲気になるそうだったので、私は覚悟を決めてこう言った。「私はパートリーダーになります。2年間ずっと伴奏をしてきたので、最後ぐらいはみんなと歌いたいです。」こうなることは予想して、考えに考えてきた言いわけだった。みんな一瞬あっけにと取られたようだった。でも、反対の意見を言う人はいなかった。

そこで白羽の矢があたったのが、ミサコだった。ミサコは私と同じピアノ教室に通っている。同じ「ショパン音楽祭」に出場するが、ミサコには将来がかかっているわけではない。合唱曲はミサコには難しいだろう。ましてやショパンだって練習しなければならないのだ。少しの後ろめたさを感じながら、中学校生活最後の合唱は、苦い気持ちで始まった。ミサコのピアノは歌の後半、一番の盛り上がるの部分で、ほとんどピアノが止まってしまう。アカペラで歌っているようなものだ。みんなにも戸惑いや動揺、がっかりした空気が漂い、せつなくいい雰囲気で進んでいる練習も、重い空気になってしまう。やっぱりショパンの曲と2曲練習するのは難しいのだ。私は趣味でピアノをやっているミサコとは違う。自分の人生がかかっているのだ。改めて、私の選択は正しかったとホッとしていた。

「カナ、ミサコなんとかしてよ!」「大きな音楽祭あるらしいじゃん。ミサコは自分のことしか考えてない。」「クラスのためって思えないのかな?」その言葉は、私の心にチクリとしみた。私はミサコが伴奏のとき、楽譜をめくる役を買ってでた。少しの後ろめたさもあつたし、嫌味を言われても何も言い返さずに、ギュッとかみしめるミサコが少しかわいそうに思えたからだ。放課後の練習にも付き合ってた。「カナごめんね。私やっぱりムリだったのかな。カナみたいに上手に弾けないし、みんなの足をひっぱってるね。」そんなミサコに私は言った。「ショパンとの両立はきついでしょ?」

するとミサコからは意外な答えが返ってきた。「私、ショパンは練習してないの。ショパン音楽祭で恥ずかしい思いをするのは私一人だけど、合唱はみんなに迷惑がかかるわ。私はみんなの最後の合唱にかける思いを知っている。だから…」。そこから先、目に涙をいっぱいにためたミサコは言葉を出すことができなかった。私はこのとき初めて、ミサコの思いを知った。

その話を聴いてから、ミサコのピアノに合わせて楽譜をめくるとき、私の手はいつも震えた。ピアノの音が、心に深く深く、刺さるように響いてきた。

それからの合唱練習でもミサコのピアノはいつも止まった。クラスのしらけた雰囲気や、みんなの冷たい視線がミサコを刺す。私はミサコに何も言えなかった。

そんなとき、クラスを救ったのは指揮者のタクヤだった。ミサコがいないときを見計らってタクヤが言った。「みんな、指揮をしながら歌おう。全員がリズムをつかめれば、俺の指揮だけで歌えるはずだ。ピアノが止まっても、歌えるはずだ。歌っていれば、ピアノだってまた始まるさ。誰だって、人の手を借りて生きていくんだ。」私も叫んでいた。「歌声よりも心をあわせようよ。ミサコは自分の音楽祭は捨てるの。みんなのためだって…」最後は言葉にならなかった。

『心を合わせて』。それが私たちのクラスのテーマになった。担任の先生が放課後の合唱練習を写真に撮り、教室に飾ってくださった。そこには少し風変わりな合唱風景が移っている。全員が、指揮を見ながら、指揮をして歌っているのだ。笑顔で。

合唱コンクール本番。やっぱりいつものところでミサコのピアノは止まった。楽譜をめくる私の位置からは、学級のみみんなの姿がよく見えた。後ろに組んだみんなの手がかすかに動いている。指揮をしながら歌っていたのだ。その姿を見届けたミサコは、必死に目で音符を追い、再び弾き始めた。タクヤは指揮をしながらにっこりほほえんだ。「どうだ」と言わんばかりの、会心のほほえみだった。

合唱コンクールは終わった。最優秀賞はおろか、優秀賞もとれなかった。「ショパン音楽祭」、私は念願の金賞を獲得した。ミサコは参加を辞退した。

教室には相変わらず、合唱練習の写真が飾ってある。他のクラスの人には、風変わりなこの写真を不思議そうに見る。「これ、何してるの?指揮?」。聞かれた人は答えず、得意げにほほえむだけ。みんなこの写真が好きだと言う。

私の部屋。華やかな衣装を身に着け、ショパン音楽祭で金賞を胸に抱く私の写真。それよりもずっと大きな一枚が勉強机の真ん中に飾ってある。合唱練習のあの写真だ。私の将来の夢につながる大きな何か、この一枚にはある。

私の夢はピアニスト。私は、この「ピアノのない歌」を決して忘れずに生きていこうと思う。

